

第2回
ゆ〜ぷる にらさき
廃止方針に関する説明会

次 第

- 1 開 会
- 2 市長挨拶
- 3 廃止方針の説明
- 4 質疑応答
- 5 閉 会

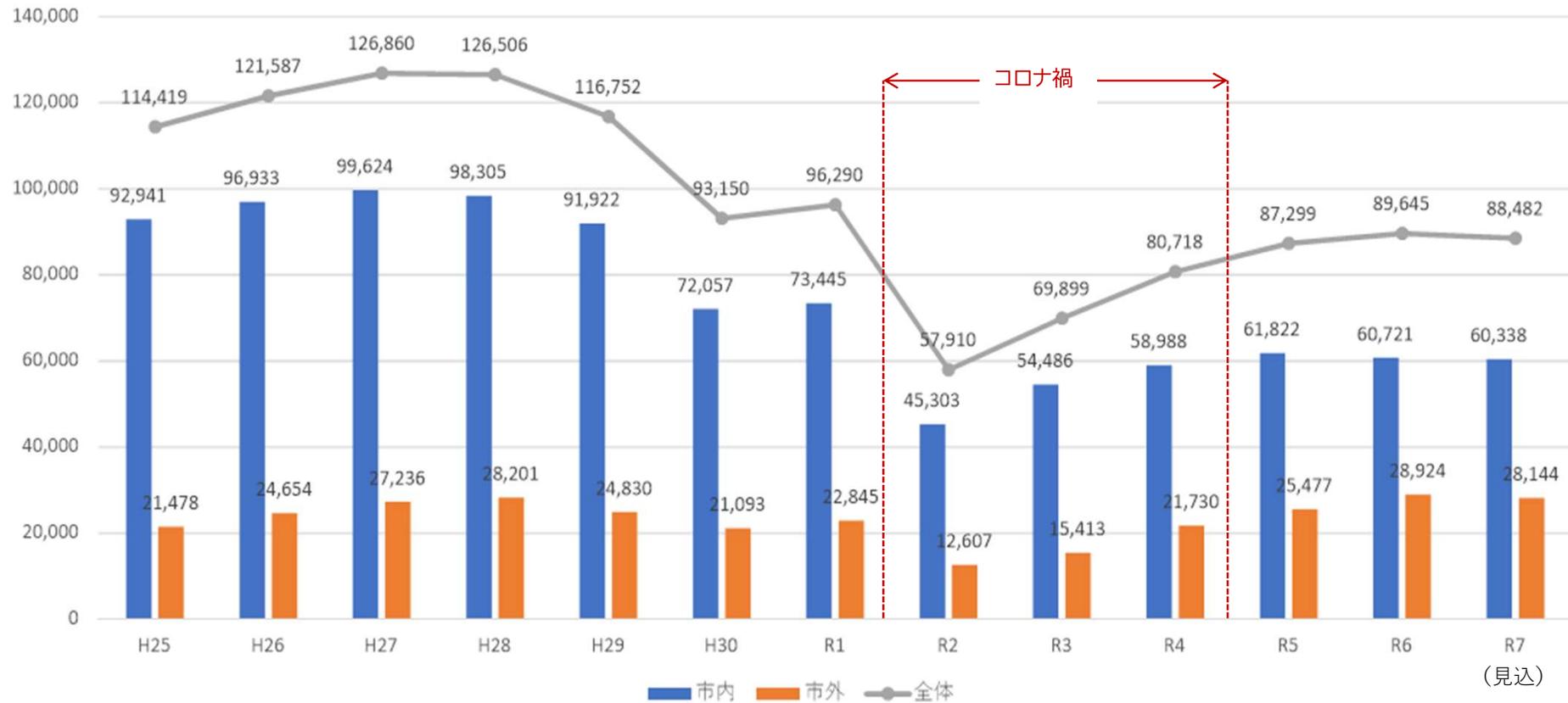
韮 崎 市

経過と現状分析

- **公営の保健休養施設として、市民のふれあいと交流を促進し、余暇の充実並びに健康及び福祉の増進に寄与するため平成10年10月に開設されました。**
- **開設後25年が経過する中、維持管理費や施設老朽化に伴う修繕経費が増大し、経営状況が悪化していることから、令和6年度より、民間事業者の経営ノウハウを取り入れた運営手法を模索する「民間活力導入可能性調査」を実施し、今後の施設のあり方について検討を行ってきました。**
- **本調査では、施設の現状分析や市民アンケート、民間事業者の施設運営に対する意向調査等を行い、様々な視点から検討を行ってきたところではありますが、財政負担などの課題解決には至らず、最終的に廃止方針という結論となりました。**

利用者数の推移

(単位：人)

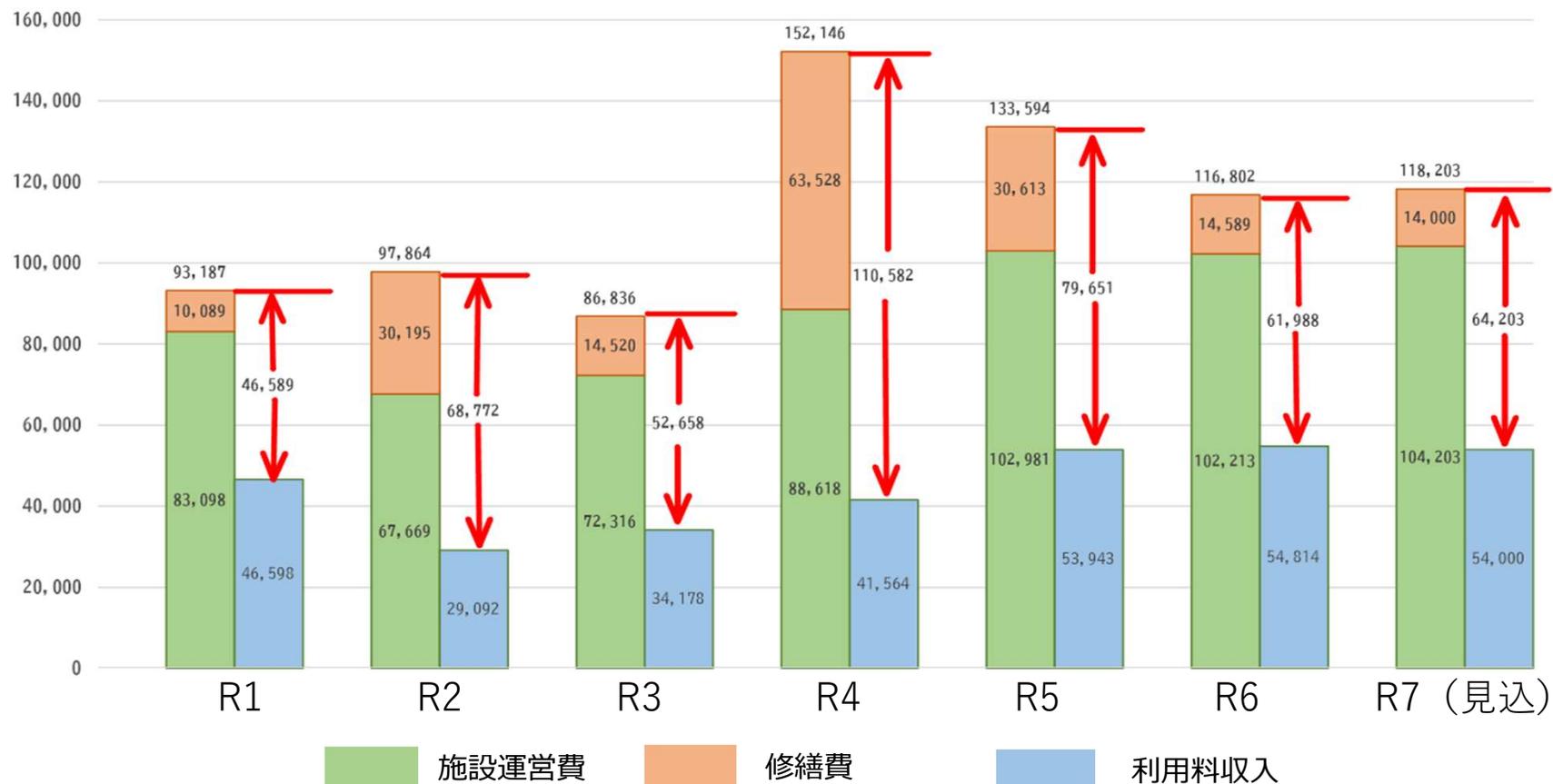


平成27年及び28年は12万6千人台を維持していたものの、それ以降は減少に転じ、特に市内利用者数の落ち込みが顕著に表れ、コロナ禍を過ぎても、回復の兆しを見せず低迷が続いております。

(参考) 過去最高値：H17 136,000人

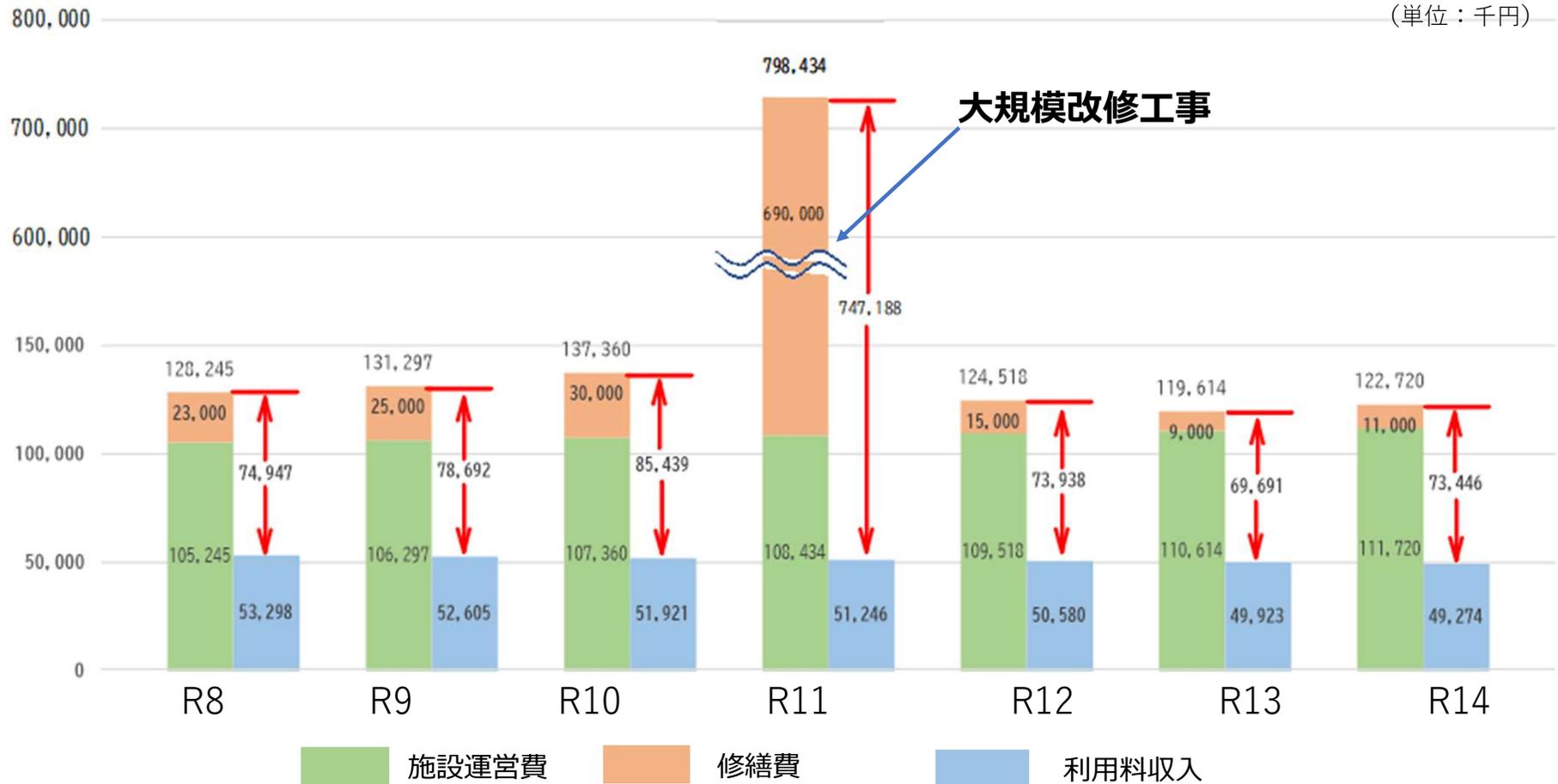
経営状況

(単位：千円)



運営費と修繕費を合計した施設維持に係る年間経費については、令和4年度以降は1億円を超えており、利用料収入だけで賄いきれておらず、その差は令和4年度以降で平均約8,000万円です。

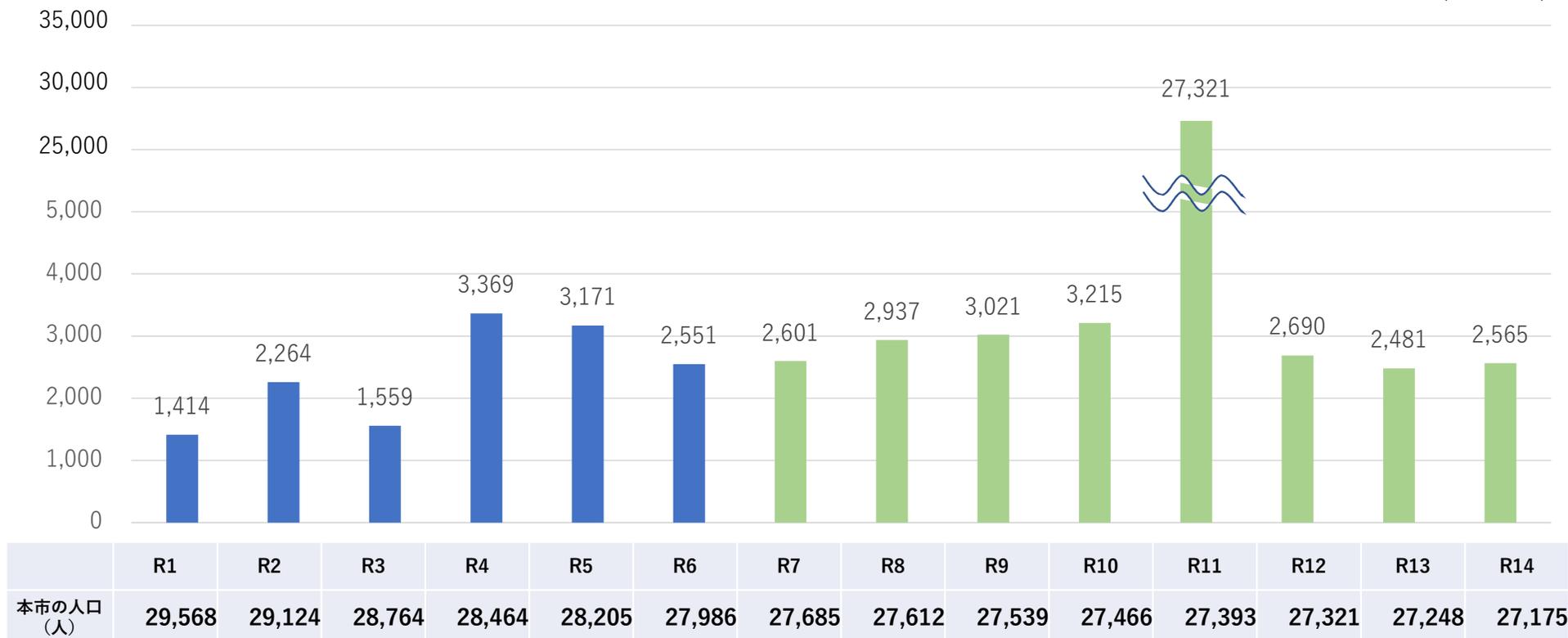
今後の経営見通し



令和11年度には開設後30年が経過することから、施設の長寿命化を目的とした大規模改修が必要となり、約7億円の経費が見込まれ、さらなる財政負担が生じます。

市の財政負担に対する市民一人当たりの負担額の推移

(単位：円)



※市の財政負担額〈運営委託経費と修繕費の合計〉を人口で割り返して算出しております。
(R7以降は蕪崎市人口ビジョンの推計値を参考に算出しております。)

運営維持に必要な料金設定

(単位：円)

		現行料金	利用料収入により 施設運営を維持するために必要な料金設定
市内 (一日券)	大人	450	1,800
	こども	240	900
市外 (一日券)	大人	900	3,600
	こども	500	2,000

※施設運営費及び今後の施設修繕費を賄うのに必要な料金設定で、令和6年度の利用者数を基に算出しました。

市民アンケートによる利用実態の把握

調査対象：市民1,500人（住民基本台帳から地域や年代等を均等に無作為抽出）

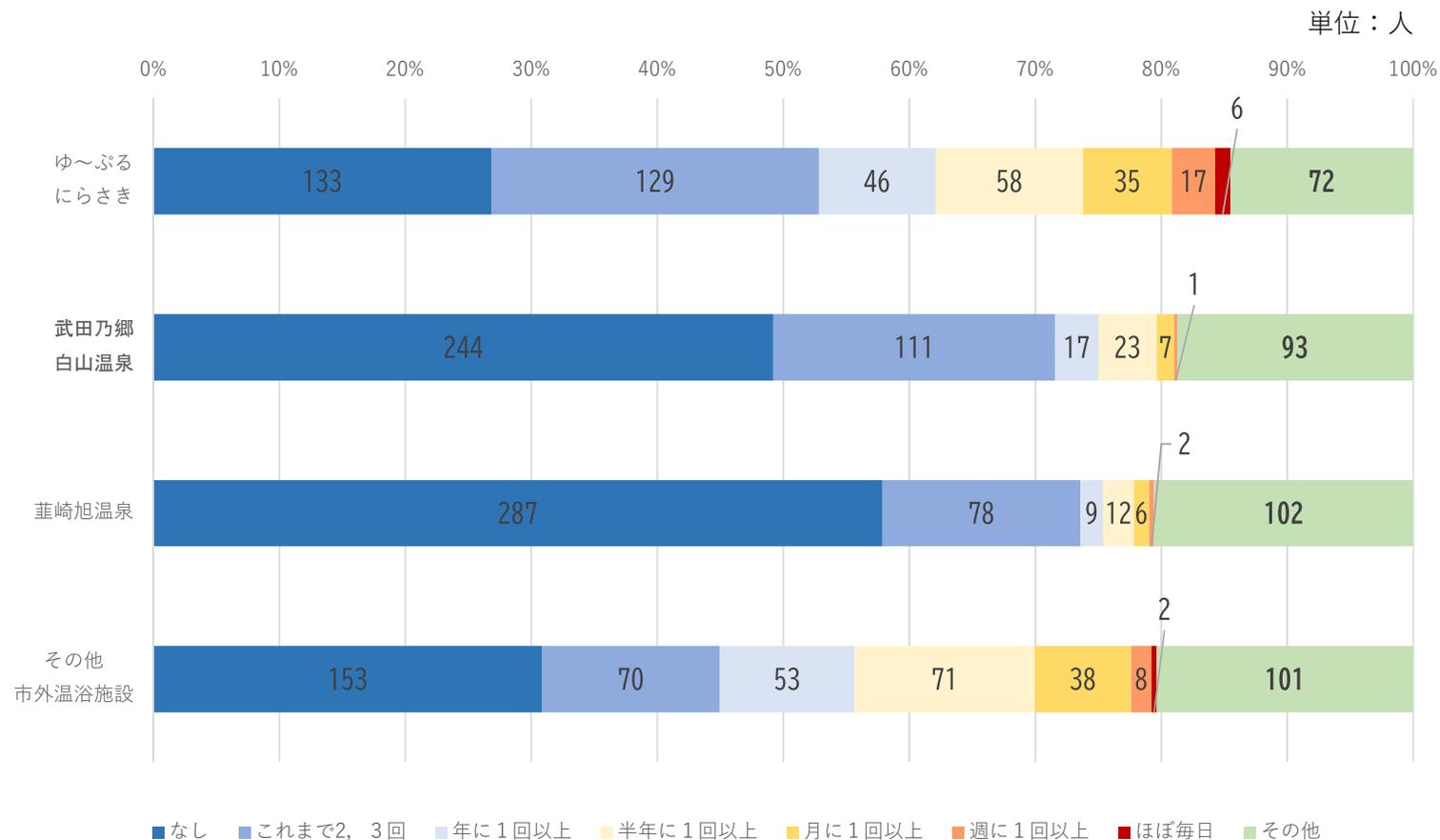
調査方法：郵送依頼（回答方法はアンケート用紙及びWEB回答のいずれか）

調査時期：令和6年12月17日～31日

回答者数：496名（33.1%）

調査内容：施設の利用頻度や利用目的など

温泉施設の利用頻度



アンケート結果では、ゆ〜ぷるにらさきの利用について「週1回以上」及び「ほぼ毎日」と回答された方が23人（4.6%）と少数なのに対し、「なし」及び「これまで2、3回」と回答された方は262名（52.8%）と半数を占めた。

地域別の利用状況

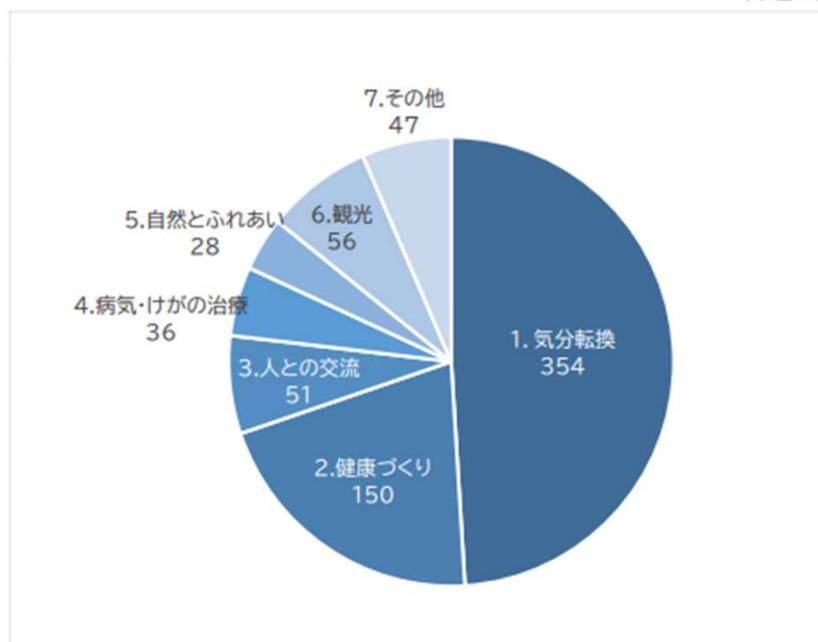
※ほぼ毎日及び週1回以上利用される方



施設利用目的（複数回答あり）

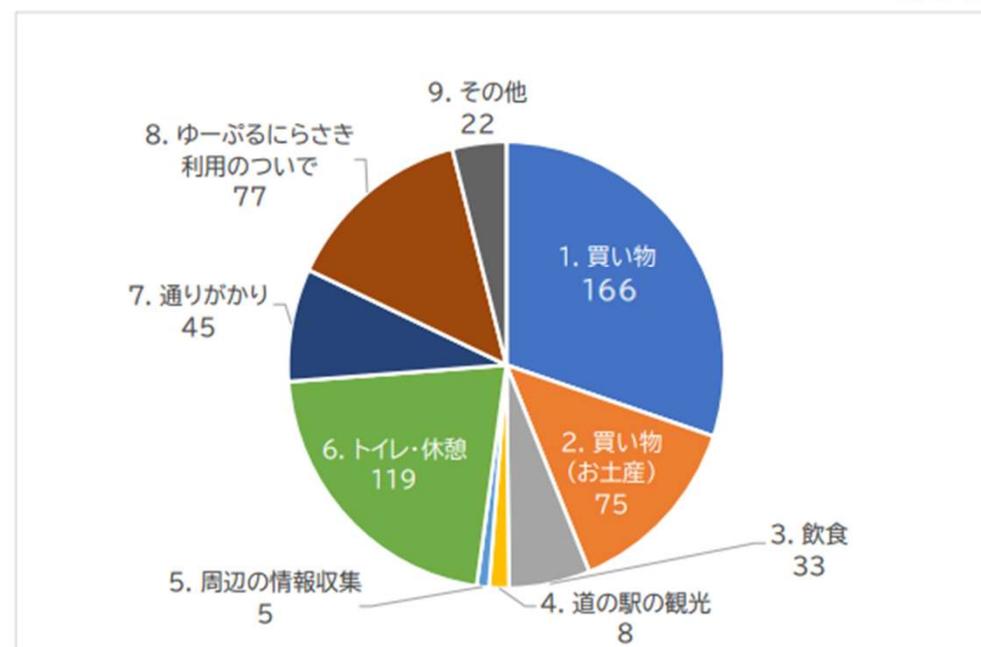
ゆーぶるにらさき

（単位：人）



道の駅にらさき

（単位：人）



※項目の順序はアンケート質問順です。

民間事業者への事業参画に対する 意向調査の概要

調査対象： 温浴施設や道の駅等の公共施設のほか、アウトドア施設などを運営する民間事業者(18社)へ意向確認。その内、関心を示していただいた9社へ意向調査を実施。

調査方法： 対面によるヒアリング方式

調査内容： 市民アンケートも踏まえた温浴施設と道の駅にらさきの施設活用策や想定される事業手法など。

施設に対する主な意見（意向調査協力企業 8 社）

（ゆ～ぷるにらさき）

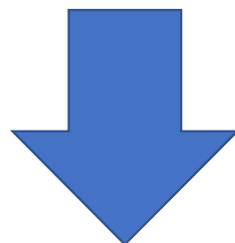
- ・ 利用料収入だけでの運営は困難であり、不足分については今後も行政負担が必要。
- ・ 施設をリニューアルすることで経営改善の余地はあるものの、リニューアル費用は行政負担とすること。

（道の駅にらさき）

- ・ 施設の規模や駐車台数などが他の類似施設に比べ小さい。
- ・ 富士山や八ヶ岳の眺望、河川が隣接している環境や首都圏から近い立地は有効である。

運営に対し積極的な意向を示した事業者（1社）の意見

- ・全国的に人気のアウトドア要素を施設全体に盛り込んだリニューアルを行うことで、経営改善が期待できる。
- ・修繕や改修、リニューアル等に係る費用の目途がたてば、独立採算による運営の可能性も出てくる。



この意見を基に、現地調査・ヒアリングを実施

- ・詳細な現地調査や現状分析により、独立採算による管理運営の可能性は無いと判断。
- ・将来的な財政負担は現状と同規模か、詳細設計によってはそれ以上の財政負担が想定される。

今後の方針について

ゆ〜ふるにらさき

令和8年3月末の廃止方針

- ・ 光熱水費や定期的な維持管理費などの運営コストが過大となり、財政負担が増大し続ける一方で、利用者数の減少により費用対効果が低下していること。
- ・ 利用者数の減少の大きな要因として市民の利用数の減少が顕著であり、将来的な人口減少を考慮すると利用者数の大幅な改善が見込めないこと。
- ・ 施設長寿命化のため、今後、大規模改修が必要となり、さらなる財政負担が見込まれること。
- ・ 本市が直面している厳しい財政状況を踏まえ、公共施設等総合管理計画に基づく、公共施設全体の適切な維持管理や縮減による財政負担の抑制が必要不可欠であること。

道の駅にらさき

引き続き存続し、営業を継続

- ・道の駅は、地域の特産品や観光資源を活用して経済を活性化し、観光情報やイベント情報を発信する拠点の一つであること。
- ・ドライバーに休憩や情報提供を行うことで安全運転を促進する機能を有していること。
- ・道の駅にらさきと「ゆ〜ぷるにらさき」の利用客層は異なり、温泉施設廃止後も集客への影響は少ないと考えられること。
- ・温泉施設と異なり、施設管理や経常的な修繕に要する経費が少額であり、テナント収入による持続的な維持管理が可能であること。

廃止が決定した後の施設の活用方針

「ゆ〜ぷるにらさき」の建物および駐車場については、民間事業者への売却や譲渡を含めた公募を行い、温浴施設だけでなく、様々な用途も視野に入れて幅広く検討してまいります。

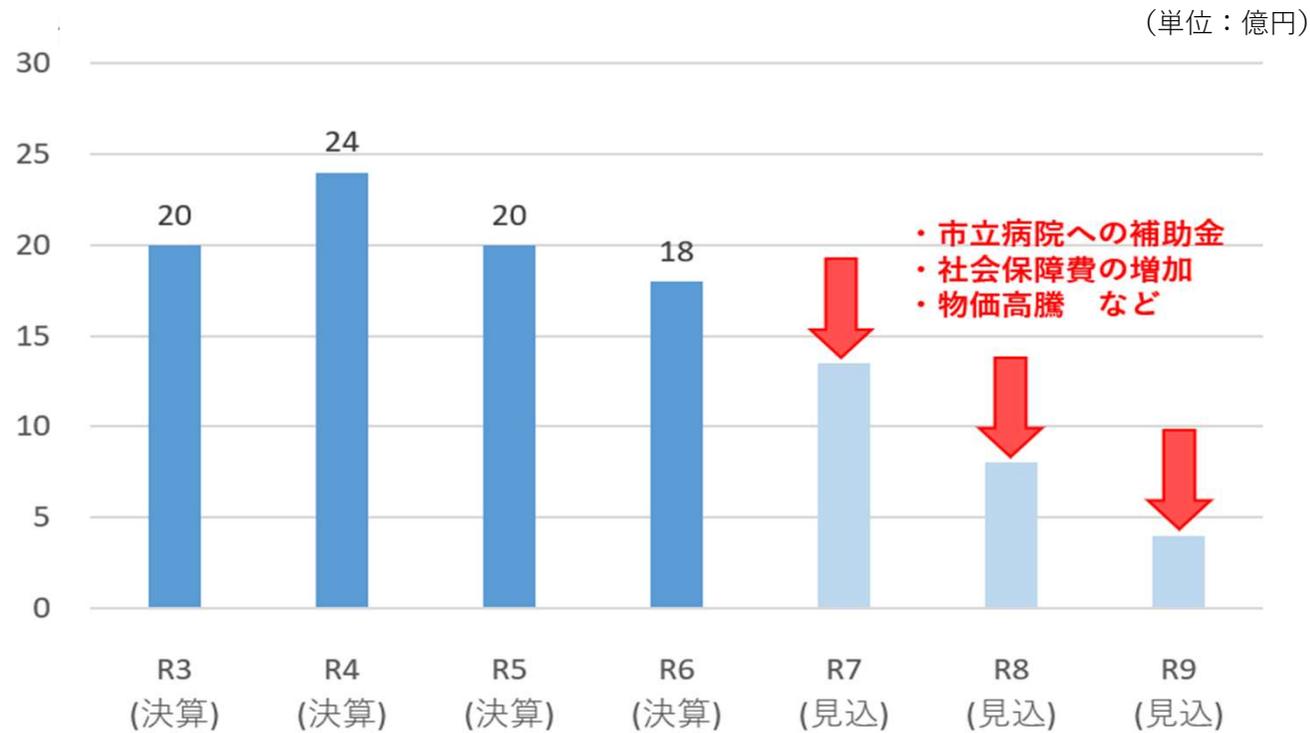
※活用方針が決まるまでの当面の間は、道の駅の駐車場として活用

指定避難所等の施設廃止に伴う対策について

- 「ゆ〜ふるにらさき」につきましては、即時の撤去等の予定はないことから、当面の間は避難所として活用してまいります。
- 立地条件、施設規模、収容人数、災害時のアクセス性といった観点から、「中田公民館」や「中田屋内運動場」などのほか、地区公民館分館等の可能性も含め、総合的に勘案し、適切な避難所配置に向け、中田町の各地区の皆様方と協議を進めてまいります。

市の財政状況について

財政調整基金残高の推移（見込み）



公共施設等総合管理計画に基づく、公共施設全体の適切な維持管理や縮減による財政負担の抑制も必要不可欠であります。